



2022年2月14日

各位

会社名 株式会社ジェイテックコーポレーション  
 代表者名 代表取締役社長 津村尚史  
 (コード番号: 3446 東証第一部)  
 問合せ先 取締役管理部長 平井靖人  
 (TEL. 072-655-2785)

## 2022年6月期第2四半期連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2021年8月12日に公表いたしました2022年6月期第2四半期連結累計期間の業績予想につきまして、本日公表の実績値との間に下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2022年6月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異 (2021年7月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想値 (A)	339	△179	△181	△128	△22.01
実績値 (B)	339	△231	△234	△169	△28.98
増減額 (B - A)	0	△51	△52	△40	
増減率 (%)	0.1	-	-	-	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年6月期第2四半期)	-	-	-	-	-

(注) 当社は、2021年6月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2021年6月期第2四半期の数値については記載しておりません。

#### 2. 2022年6月期第2四半期連結累計期間のセグメント別売上高の業績予想値と実績値との差異 (2021年7月1日～2021年12月31日)

	オプティカル事業	ライフサイエンス・ 機器開発事業	その他事業 (電子科学株式会社)	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回予想値 (A)	273	31	34	339
実績値 (B)	189	117	33	339
増減額 (B - A)	△84	85	△1	0
増減率 (%)	△30.8	274.7	△4.2	0.1

### 3. 差異が生じた理由

#### 【第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異】

連結ベースの売上高は前回発表予想値並みとなりましたが、各段階損益について、前回発表予想値に対して実績値が下回る結果となりました。

これは、売上見込みに対する売上実績について、ライフサイエンス・機器開発事業は大きく上回ったものの、オプティカル事業は大きく下回ったことが要因であります。連結ベースの売上実績への影響は少ないものの、利益率の高いオプティカル事業の売上高が減少したことにより、各段階損益への影響があらわれる結果となりました。

各事業それぞれの状況について説明いたします。

#### <オプティカル事業>

今後のオミクロン株の状況には注意が必要であるものの、世界各国の施設におけるコロナウイルスの影響は沈静化してきており、通常稼働に戻りつつある状況であります。

営業面においては、前年度末からPR情報にて3度にわたって発表した通り、アメリカ、中国、日本国内からの大型受注があり、これら以外においてもコロナ禍で停滞していた案件が再開したことによる受注が続いております。

上記地域以外にも、ドイツ、イギリス、スイス、イタリアなど欧州各地の第4世代へのアップグレード計画に伴う受注も活発になってきており、既存の放射光施設だけでなく新設やアップグレードに伴う新規需要が拡大してきており、世界的に需要増が期待できる状況であります。

一方、製造面において、第2四半期に納品予定であったミラーについて製造工程の遅れがいくつか発生し、当初予定よりも売上計上が少なくなりました。これらについては第3四半期に納品予定であります。

前回発表予想値から売上が大きく下回った要因は、これらの製造工程の遅れによるものであります。

#### <ライフサイエンス・機器開発事業>

第3四半期以降に売上計上を予定していた「大型自動細胞培養装置 KB-4000（約72百万円）」について、順調に開発が進み前倒しで納品したことにより、前回発表予想値から売上が大きく上回る結果となりました。

本事業においては、自動細胞培養装置や水晶振動子ウエハ加工システム等の大型装置を取り扱うことが多く、製造が順調に進んだ際は納品を予定よりも前倒しで行うことがあります。

#### <その他事業（電子科学株式会社）>

その他事業には子会社の電子科学株式会社を計上しており、昇温脱離分析装置（TDS）関連の受託測定やサービスに伴う売上を計上しております。

なお、2021年6月期連結会計年度より電子科学株式会社を株式の取得により子会社化し、連結の範囲に含めております。2021年6月30日をみなし取得日としており、かつ四半期連結決算日との差異が3ヶ月を超えないことから、当第2四半期の連結経営成績においては同社の2021年7月から2021年9月までの3ヶ月分の業績を計上しております。

特にこの3ヶ月において、前回発表予想値からの大きな差異はありません。

詳細につきましては、本日公表しております「2022年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

**【通期の業績予想値について】**

オプティカル事業におけるミラーの製造工程の遅れによる売上減少の影響、及びライフサイエンス・機器開発事業における大型自動細胞培養装置 KB-4000 の前倒し納品による売上増加の影響共に、期中での売上計上時期のずれであるため、通期の業績見込みへの大きな影響はないと考えております。

そのため、2022年6月期の通期連結業績予想につきましては、2021年8月12日公表の予想値から変更しておりません。また、公表すべき事案が生じた場合は、速やかに開示を行ってまいります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上